

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
231BZ02	鉄道史ゼミ	多様な視点で鉄道・交通史を研究する	宗像 俊輔	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	近代史、現代史、経済史、社会史、地域史		
ディプロマポリシーとの対応	3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	交通概論 AB、交通史、鉄道史、鉄道技術史				
オフィスアワー	月曜日・火曜日・土曜日（要確認）				
教員への連絡方法	s.munakata@toko.hosho.ac.jp				
講義の目的	鉄道を中心とした交通に関する過去の文献・史料を読み解きながら、鉄道がいかに社会と関係していたのかを、歴史学的に紐解けるようにする。卒業論文は、鉄道がある時代であれば、国内外問わない。鉄道の建設経緯のみならず、その鉄道があったことによる社会へのインパクトについて探究する。				
到達目標	第1に、交通体系の発展が何に起因し、いかなる構造的な特質を持っているのか。第2に、鉄道を取り巻く社会環境にはどのような変化があったのか。第3に、鉄道や交通に関する文献や史料が、鉄道史のみならず、歴史学全体でいかに位置づけられるか。現代に至る交通体系の系譜を、歴史的視座で複眼的に理解できるよう、心掛けてほしい。				
講義内容	前期は主に鉄道史の文献や史料の輪読を行い、感想や論点の個人発表と全体ディスカッションをする。基礎的な教養と史料分析の技法を身に着けたうえで、自らの興味や関心に基づいた研究テーマを設定する。夏季休業中に後期は史料(新聞や一次史料など)や先行研究(書籍や論文)を収集し、後期では研究内容の発表・討論と卒業論文の執筆指導を行う。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期のゼミの進め方、自己紹介、諸連絡など		
	第2講	導入	鉄道史・交通史研究の現在、レポート課題の作り方		
	第3講	課題図書①の輪読	『日本鉄道史』を読んだ感想発表会		
	第4講	課題図書②の輪読	『都市鉄道の技術社会史』—都市史からみた鉄道—		
	第5講	課題図書③の輪読	『初詣と社会史』—文化史からみた鉄道—		
	第6講	課題図書④の輪読	『女子鉄道員と日本近代』—女性史から見た鉄道—		
	第7講	課題図書⑤の輪読	『鉄道の誕生』—鉄道200周年に寄せて—		
	第8講	史料分析の方法①	『樺太鉄道資料集』の読解		
	第9講	史料分析の方法②	『樺太鉄道資料集』の考察		
	第10講	史料分析の方法③	『乗務日誌』の読解		
	第11講	史料分析の方法④	『乗務日誌』の考察		
	第12講	研究テーマの設定	漠然とした関心を具体的な研究テーマに変えるための方法		
	第13講	先行研究の収集	先行研究の収集方法と問いの立て方		
	第14講	史料調査の方法	史料へのアクセス方法、研究機関やデータベースの紹介		
第15講	前期のまとめ	前期の内容を踏まえた討論、夏季休暇中の課題設定			

第16講	後期オリエンテーション	後期のゼミの進め方、諸連絡など
第17講	卒業論文の進捗報告①	夏季休暇中の調査報告と講評
第18講	卒業論文執筆の注意事項	『基礎ゼミワークブック』などを参考にした論文執筆法の確認
第19講	史料の取り扱い①	収集した史料の整理と分析の仕方
第20講	卒業論文の進捗報告②	全体の構成
第21講	先行研究とリサーチクエスチョン①	先行研究を「批判的」に読むためのポイント
第22講	先行研究とリサーチクエスチョン②	論文としての「問い」と「仮説」の立て方
第23講	史料の取り扱い②	リサーチクエスチョンを前提にした史料の分析の仕方
第24講	卒業論文の進捗報告③	リサーチクエスチョン、先行研究の整理と批判、論文の方向性
第25講	卒業論文の執筆①	序論と結論の考え方、書き方
第26講	卒業論文の執筆②	本論の書き方
第27講	卒業論文の執筆③	冬期休暇中の課題設定
第28講	卒業論文の進捗報告④	冬期休暇中の調査報告と講評
第29講	卒業論文の執筆④	形式面の確認と調整
第30講	卒業論文発表会	各々の卒業論文に対する講評
指導方法	前期は文献や史料の輪読と発表・討論、および史料収集に向けた調査・整理方法を紹介する。必要に応じて、本学の図書館だけでなく、外部機関にも出向いて調査する。後期は研究テーマの発表・討論と卒業論文執筆指導を行う。	
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
成績評価方法	平常点(調査状況・発表・討論時の発言):50%、卒業論文:50%として、総合的に評価する。	
課題(試験・レポート)に対する フィードバックの方法	特に卒業論文については、適宜提出された者に対してコメントを入れ、加筆修正の指示を出す。	
テキスト	輪読テキストおよび史料は、各回で随時配布する。	
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。	
実務家教員による授業	教員 経歴	
特記事項		